先進のユーザー事例❾　安心・安全への取り組み

尾家産業株式会社

食の「安心・安全」対策として HAツールによるシステムの2重化を採用

POINT
- 食の「安心・安全」を全社を挙げて追求
- HAツール導入により安全のためのシステム基盤を構築
- Bitis HA採用は、操作性・安全性・スピードがポイント

COMPANY PROFILE
創業：1947年
設立：1961年
本社：大阪市北区
資本金：13億570万円
売上高：642億円（2009年3月）
従業員数：699名（2009年3月）
http://www.oie.co.jp/

食材卸のエキスパートによる安心・安全への取り組み

大阪市北区に本社を置く尾家産業は、ホテル・レストラン・居酒屋などの外食産業や、弁当・総菜・宅配などの中食事業者、オフィスの給食事業者、病院や介護施設などのヘルスケア事業者向けに業務用食材を供給している卸売企業である。北海道から沖縄までの各地に50の営業拠点と、大阪・東京に2カ所の物流センターがあり、毎日、全国の取引先8000社の1万7000の店舗へ向けて、種類だけでも3万アイテムというさまざまな食材を配送している。「弊社の扱った食材は、どなたでも一度は口にされたことがあるのではないか」（常務取締役 管理本部長の田仲勇一郎氏）というほどの事業規模だ。

その同社が最近、最も重要な経営課題として取り組んでいるのが「安心・安全」である。食の安全と安心については、それを揺るがす事件や事故が多発し消費者の目がいっそう厳しくなっているが、「食材卸のエキスパートとして何をすべきか。取引先や消費者の期待にどのように応えるか」（田仲氏）という自問をしつつの取り組みである。

そしてその取り組みは、「情報システムも例外ではない」とシステム部課長の越智亮介氏は次のように語る。

「営業部門は、安心・安全な商品開発やメニュー提案などにより取引先の期待に応えています。それと同じように、システム部門もシステムの側から食の安心・安全に取り組んでいくことが必要だと考えています」

田仲 勇一郎氏
常務取締役
管理本部長

越智 亮介氏
システム部
課長

「賞味期限」をルール化しシステム構築

その1つとして同社では今、IBM i上の販売管理システムと連動する「賞味期限管理システム」を構築中である。

食の「安心・安全」に対する取引先の厳しい目は、納品される食材の賞味期限に対しても向けられている。しかしながら、賞味期限の日付管理は、食材に表示された日付を出荷時に人の目で確認する形で行っていたため賞味期限切れを見落としてしまうことがあり、取引先からのクレームの原因となっていた。

現在構築中のシステムは、まだ検討中の部分もあるが、「入荷時の検品で利用中のハンディターミナルシステムを使って賞味期限の日付をデータ化し、日付単位で在庫管理できる仕組みを考えている」（越智氏）という。しかし、入荷時に賞味期限の日付を入力する作業は現場担当者の負担増ともなる側面があり、「その解決策を求めて、仕入先のメーカーなどに協力を要請している」段階だという。

「課題も多くありますが、賞味期限管理システムにより、賞味期限切れ商品の出荷を防止でき、食の「安心・安全」が確立できるので、関係部署とも協力して課題解決に努力しています」と越智氏は説明する。

365日24時間対応のために Bitis HAを導入

同社の「安心・安全」に向けたシステム構築の最大の柱は、IBM iの2重化である。同社では、2002年に4台あったAS/400を1台へ集約し、2004年にその1台を本社からデータセンターへ移設した。そして今年2月、Bitis HAを導入し、IBM iの2重化による災害対策システムをサービスインさせた。

「この4～5年、取引先との取り組みで、食材に生鮮品や非食品なども加えた一括物流が増え、物流センターが365日24時間稼動するようになりました。それゆえ弊社のシステムがダウンするとすべての業務が停止し、食材の供給がストップしてしまいます。システムを絶対に止めない仕組みとして、2重化を採用することにしました」と田仲氏はHAシステム導入の背景を語る。

Bitis HAを採用したのは、「操作性、安全性、スピードの3点がポイント」だったという。

「災害対策システムは日々の運用作業と直接的に関係ないので、設定等の操作が容易であること、データのコピーが正確に取れ、パフォーマンスのよいことが条件と考えました。以前、導入していた別のHA製品は機能が多すぎて設定が細かすぎ、扱いにくいという印象がありました。今回は、弊社の目的に合ったHAツールを選択しました」(越智氏)

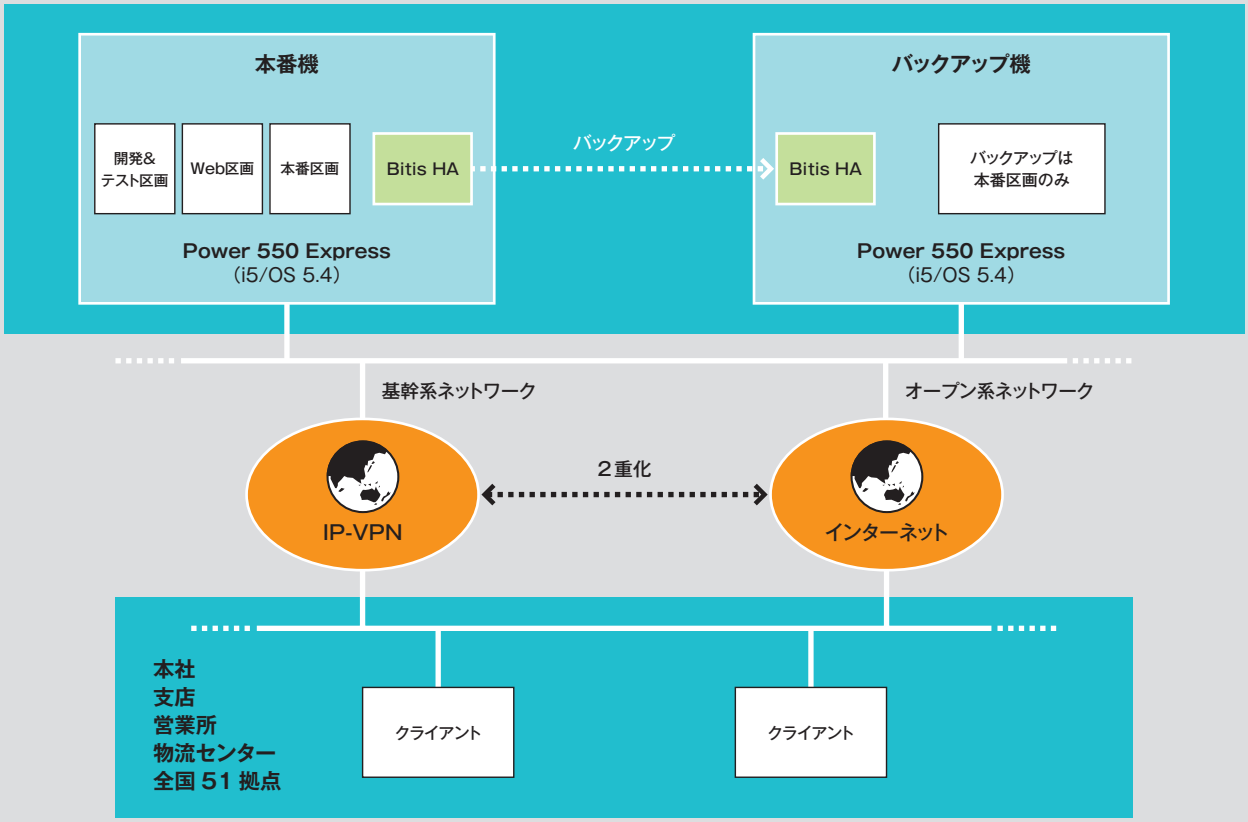
バックアップ機は本番機と同一の構成で、フルでバックアップを取っている。メッセージのエラーチェックは1日1回。それも含め、データセンターにHAシステムのオペレーションを委託している。

HAシステムの導入によって、テープ・バックアップのやり方が大きく変わった。従来は、夜10時に本番機を停止させ約40分かけてテープにバックアップしていたが、現在は本番機は稼働させたまま、バックアップ機側からテープに落とすやり方に変えた。

システム部門では、次の「安心・安全」の取り組みとして、全社に約400台あるPCのシンクライアントへの切り替えを検討中である。

越智氏は、「シンクライアント化によってエンドユーザーに対するヘルプ／サポートや故障対応が速くなると見ています。こうした運用上のメリットも少なくありませんが、情報漏えいに対してより強固な対策を立てられるのが最大の目的です」と語る。

HAシステムの導入から賞味期限システムの構築へ、さらにシンクライアント化の検討と、同社の「安心・安全」に対する追求は、現在も進行中である。



図表 尾家産業のHAシステム概要